

誤飲

子どもが、飲み込むと危険なものを飲み込んだ場合を誤飲といいます。家庭の中であっても、子どもに危険なものはたくさんあります。タバコ、医薬品、漂白剤、殺虫剤、燃料(灯油など)、ボタン電池などです。

1 誤飲しました！

落ちついて、何を飲み込んだか周囲にあるものから推測してください。

灯油など揮発性のある石油製品と漂白剤、強い酸やアルカリの製品などは、吐かせるとかえって危険ですので、診察を受けましょう。これ以外の場合は、一度、吐かせてみましょう。

飲み込んだものの残りや、吐いたもの、その容器、添付説明書などは、診察を受けるときに必ず持参してください。



2 心配のない誤飲物

体温計の水銀、クレヨン、石けん、インク、絵の具、墨汁、化粧水、シリカゲル、線香

3 吐かせ方

指をノドの奥に入れて舌を押し下げる



4 ノドに詰まっているとき

①頭を下にして背中を叩く

②後ろからお子さんのお腹の前で指を組み、お子さんのお腹を上後ろ方向に強く引き上げる



漂白剤などは吐かせるとかえって危険なので病院へ



頭を下にして背中をたたく

中毒110番 ダイヤルQ2

大阪 0990-50-2499
つくば 0990-52-9899

(通話料の他、3分間300円の情報提供料がかかります)

タバコ

“タバコを食べてしまった”といっても、あまりのニガさのために普通は1cmも食べてはませんが、その場に残っているものを確認してください。それからお子さんが飲み込んでいるかもしれませんので、吐かせてみます。吐いたものの中に、タバコの葉が1、2枚程度でしたら、あわてないで大丈夫です。



吐いたものの中にタバコの葉が1、2枚程度でしたら、あわてないで大丈夫



2cm以上を食べたようでしたら、できるだけ早く診察を受けましょう。

特に、タバコの灰皿の汁や、タバコを捨てたジュース缶などの残りを飲んだ場合は、できるだけ早く診察を受けましょう。



下記の文献から多大の部分引用しました。

- 1) 子どもの急病時にはどうするの 一救急診療所のかかり方ー 佐藤好範、西牟田敏之監修、千葉県小児科医会作成、2002年4月発行
- 2) 「子どもが たいへん！」=お子さんの急病ガイドブック= 長野市小児科医会編集、長野市発行、2002年7月発行